

重要文化財の秘密 「問題作」が「傑作」になるまで

東京国立近代美術館(竹橋) 23.03.17~05.14



「東京国立近代美術館」の開館70周年を記念して開催される展覧会は、明治以降の絵画・彫刻・工芸のうち、「重要文化財」に指定された作品のみによる豪華な催事である。今でこそ「傑作」の呼び声高い作品も、発表された当初は、それまでにない新しい表現を打ちたてた「問題作」であった。本展では、そうした作品がどのような評価の変遷を経て、「重要文化財」に指定されるに至ったのかという美術史の秘密に迫り、それらをまとめて観賞できる得難い機会で、これらの作品を通して日本の美術の魅力を再発見できる。

<展覧会の見どころ> (作品保護のため、会期中展示替えあり)

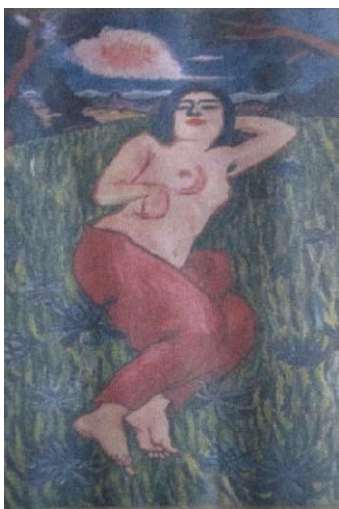
1. 史上初、展示作品すべてが「重要文化財」

22年11月現在で、絵画・彫刻・工芸については「68件」が「重要文化財」に指定されているが、その内の「51点」が展示されている。

2. 「問題作」が「傑作」になるまで、指定の歩みから浮かび上がる近代日本美術史

3. あらたに指定された鏑木清方の《築地明石町、新富町、浜町河岸の三部作》を含め、当館所蔵の「重要文化財」全17件を公開

高橋由一 《鮭》 1877年 上部のポスター写真



よろず 萬 鉄五郎 《裸体美人》1912年 油彩/カンヴァス

生い茂る緑の野草は、ゆらめく炎のように描かれてざっくりとした野生味ある肉厚なタッチは、インパクトの強いヌード絵画として記憶に残る作品である。

この作品はゴッホやマティスの影響が色濃く見られ、人物描写は大胆に単純化され自由が尊重される時代の幕開けを大胆に彩った強烈な個性は新鮮である。

漫画の吹き出しのような形をした赤雲が象徴する不自然な作品に、何が秘められているのだろうか。

しかし、絵を学んだというこの画家のヘタさ加減はいったいどこからくるのだろうか。萬鉄五郎の生誕地である、岩手県花巻市には「萬鉄五郎記念美術館」がある。